



## 診察室

## ざくばらん

## 試験内容公表

## 不安なら予習

## 高齢者の免許更新

「この歳になって、まだテストされるなんて」と嘆く患者さん。テストとは、75歳以上の高齢者に義務付けられた免許更新時の認知機能検査のことだ。

なり、「うーん」とはなして。81歳になるワッシーの先輩で、まだ現役。お歳だから、ちょっと記憶力に心配なところがある。先日も、ゴルフのスコアが怪しかった。クラブの置き忘れもあった。で、「そろそろ、免許証の更新では？」と水を向けたが、「ゼンゼン、大丈夫や」と余裕の答え。昔から、「傾向と対策」に長けている。「ネットに、テスト問題がそのまま出ている。それも知らないのか」と、虚仮にされた。

で、調べてみると、確かに、警視庁Webサイトでは、詳しく認知機能検査の実際の内容が示されている。時間の見当識や手掛かり再生、時計描写とそのまのようだが、問題は、手掛かり再生だ。16個の絵を見せられて、あとでどれだけ記憶できたか調べるものである。

が、これは、高齢者にとっては結構に手強そつだ。気の小さいひとなどは、まず、テストというだけで生きた心地がしない。絵の一つも見せられただけで、頭の中が真っ白になるかも。記憶力は正常でも、半分も記憶できないかもしれない。なるほど。それで、そういつつこのために、警察庁は「親切に検査内容を公表してくれているのかもしれない。まさか。

「うーん、前もって準備したら、皆、成績が良くなる。検査の意味がなくなるのでは？」と横やりが入った。でも、それも、ちと考えが浅い。認知症のひとは、あらかじめ答えを記憶しておこうと思っても現実には厳しい。いや、記憶できても、思い出せない。認知症かどうかチェックする検査の目的は達せられるのだ。さあ、もう心配なごとき。なにこども、備えあれば憂いなし。

(石黒修三 しいしんクリニック  
・脳神経外科専門医、金沢市在住、  
射水市出身)



イラスト・野畑桃花